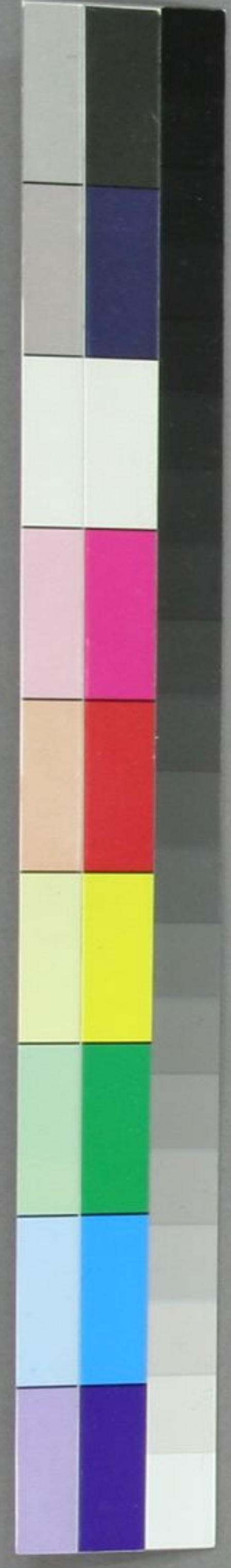


余謹テ閣下ニ申ス余去ルハ月廿九日当地ニ到  
著シジケルニ早速面會セリ

右ジケル氏ハ兩三日内ニ公ケノ書簡ヲ余ニ贈  
ル可キカ故ニ受取次第之ヲ閣下ニ呈ス可シ但  
シ同氏ノ申立ニ目リ困難ヲ解除シ又然ラサル  
モ雙方共議ノ預備ヲ為スヲ得可シト望ム所ナ  
リ

余右書簡ヲ受取迄ハジケル氏何等ノ事ヲ申立  
ツ可キヤ預言シ難シト虽モ多分同氏ノ申立ハ  
雙方共議セシ基礎ニ從テ爭ヲ裁断スルニアル



可ク日本及ヒ支那雙方ノ費用ノ為メ互ニ其償  
還ヲ為ス可キノ義務ヲ除去ス可シト思ハル  
余謂ラク右様ノ契約ナキ時ニ日本ヨリ支那ノ  
費用ヲ償フ可キノ義務ヲ負フ可ク而シテ支那ノ  
日本ノ費用ヲ償フニ及ハサル旨ヲ外國公使等  
ヨリ助言セラレタルト敢テ疑ナクジケル氏ノ  
余ニ明カニ告ケルニハ同氏モ沈葆楨モ日本ノ  
費用ヲ償フ可キノ示談ヲ未タ曾テ考慮シタル  
トアラヌトテ斯ク貴國ノ為メ都合能キ預備ノ  
約定ヲ為サハ兩國ノ為メ敢テ國威ヲ墜サス又

敢テ怨恨ノ情ヲ生セシテ此回ノ事件ヲ裁断  
シ且ツ其裁断人ノ裁決ヲ諾スルヲ得可シ余ハ  
右書簡ヲ受取次第品川氏ノ紹介ニ因リ其大略  
ヲ陰カニ閣下ニ電報ス可シ然レモ前文記スル  
所ハ多分其書簡ノ趣意ナル可シト思ハル  
借又支那ノ事情ニ付テハ地方官吏等方今將ニ  
起ラントスル变革ニ因リ虐政ヲ除キ官金ヲ私  
シスルノ弊害ヲ一掃ス可シト思ヒ專ラ人心ヲ  
鼓動シ國勢頗ル混乱ヲ極ム抑支那ハ一大政府  
ノ統括ヲ受クル合一ノ國ト稱ス可カラヌ獨立

ノ諸省相合シテ一國ヲ為スカ如ク方今其弊ヲ  
改革セントスルト虽モ是ニ抵抗スル党ノ勢猶  
頗ル盛ナリ盖シ此事ニ就テハ貴國ハ近年ノ大  
变革ニテ大ニ支那ニ卓越シ宰相江戸ニ在テ日  
本全國ノカヲ指令スルヲ得可シ然レモジケル  
氏ノ話ニ支那要路ニ當レル官吏ノ意ハ全國人  
民ノ意ト相合シ此國ノ改革平穩ニハ非スト虽  
モ次第ニ採取ル可キ模様ナリ借又去ル六月ニ  
ハ支那諸省ノ兵皆其操練軍用品指令<sup>官</sup>等ノ如キ  
頗ル不行届ノ憫ム可キ有様ニシテ支那全國中

實地ノ用ニ立ツ可キ兵李鴻章ノ率キル者トツ  
リツンタンノ率キル者トニ過キス而ノ支那人  
今ヨリ後三五年間改羅巴人ヲ雇ヒ其兵士ヲ操  
練セシムルトモ魂カニ方今ニ稍勝レルノミニ  
シテ格外ノ用ニ立タス支那ヨリ外ニ出テ、戦  
ヲ為シ又ハ熟練シタル兵卒ト戦フニハ無益ナ  
ル可シ又支那ノ海軍モ之レニ等シク方今速カ  
ニ改正スルノ勢ナレモ格別上等ノ模様ニハ至  
ラサル可シ又方今支那ノ為メ急務タルハ海陸  
軍ノ為メ熟練シタル士官ヲ得ルニアリテ之ヲ

得ルニ至ル迄ハ其人数過分ニ多キ時ニ非カレ  
ハ敢テ恐ル、ニ足ラス

ジケル氏ノ話ニ支那ノ水夫等射砲ニ熟シ・事  
ニ目リテハ餘程用立ツ可キ由ナリ然レモ支那  
ノ軍艦之レト同様ノ大サニテ且ツ同様ノ兵器  
ヲ備ヘシ日本ノ軍艦ト相敵スルヲ得ルヤ余未  
ク之ヲ信セス

野戰砲及ヒ若宮砲数十門ハ三週間ニ当地ニ著  
ス可ク且ツ方今沈葆楨ハ臺灣ニ於テ上等ノ施  
條砲六十門ヲ備ヘタル由蓋シ李鴻章ノ兵ハ未

ク台湾ニ上陸セサル可シト思ハル

造船以來既ニ六年ニ及ヒシ小形ノ甲錢艦二艘  
ト十一年ニ及ヒシ大尼國ノ軍艦一艘ヲ方外ノ  
高價ニテ支那ニ賣附ケントシ多分日本ニモ賣  
附ケント為ス可シ然ルニ余ハ此船ノ事ニ付キ  
支那人ヨリ相談ヲ受ケタレハ此船ハ皆舊ク遅  
ク錢板薄キ敗船ニシテ纒カニ浮キ砲臺トシテ  
港内ヲ守ルニ用立ツ可ク航海ニハ用立チル旨  
ヲ述ヘ支那人ノ之ヲ買入ル、ヲ止メタリ目テ  
日本ニ之ヲ賣附ケント為ストモ閣下ノ之レヲ

買入給ハサル可キ旨ヲ譯<sup>謹</sup>テ忠告ス

若シ戦争起ル時ハ上海及ヒ其他ノ支那開港場  
ハ中立ノ地タル可キノ布告アル可シト思ハル  
就テハ日本モ其開港場ニ付キ右同様ノ處置ヲ  
為スヲ得可シ

余カ傳聞スル所ニテハジケル氏支那政府ニ錢  
板ノ厚サ八インチ以下ノ甲錢艦ヲ買入レサル  
一ヲ支那政府ニ建議シタル由ナレハ余ハ少シ  
ク吾輩計ヲ変ス可シ然ル時ハ支那ノ軍艦ハ余  
カ閣下ニ建言セシ軍艦ト略同様ナル可ク而シ

大ナル甲錢艦ハ吃水ノ深キト修船ノ便ナキト  
ニ目リ不適當ナリト定マレリ蓋シ其他ハ嘗テ  
貴政府ニ建言セシ余カ圖計ノ如ク施行スルヲ  
得可シト思フ所ナリ謹言

千八百七十四年九月二日

上海ニ在ル

ジブ及ヒリビンダストン社中方ニテ  
ゼー、ジー、ヂエ

岩倉具視閣下

